指導計画〈全６時間〉

時	○学習内容　・学習活動	共通事項	指導上の留意点 『使用する曲』（作曲者）	具体の評価規準 （評価方法）
〈第一次〉ねらい：総合的な学習の時間で得られた知識や経験、興味・関心を基に「こんな音楽をつくりたい」という思いを明確にし、楽曲を聴くことによって感じ取った「音楽の仕組み」のよさや面白さを生かして音を音楽に構成していくことへの見通しをもつ。				
1	○総合的な学習の時間で得られた知識や経験、興味・関心を基にテーマを設定し、自分のイメージを音楽で表現することを知る。 ・自分が設定したテーマから思い浮かんだ言葉を基につくりたい音楽のイメージを「イメージシート」に記入する。 ○つくりたい音楽のイメージとその理由を交流し合う。		・他教科等との関連から、音楽づくりの発想を得ることによって、つくりたい音楽のイメージを持ちやすくさせると同時に、学習を広げ深められるようにする。 ・児童が共通に学習したことを基にすることにより、つくった音楽を互いに聴き合う際に、聴き手の児童が音楽のイメージを想像しやすいようにする。 ・「テーマを設定する」「テーマから思い浮かぶ言葉を記入する」「記入した言葉を参考につくりたい音楽のイメージを考える」という三つの段階を踏むことによって、自分がつくりたい音楽のイメージをもてるようにする。 ・交流し合うことによって、自分がつくりたい音楽への思いを明確にし、友達がつくりたい音楽のイメージを認められるようにする。	ア② （行動観察・「イメージシート」への記入）
2	○楽曲を聴きながら体を動かす活動をしたり、友達と即興的にふしをつなげる活動をすることによって、「音楽の仕組み」を感じ取り、音を音楽に構成する。 ・『春がきた』の歌詞から、「問いと答え」に気付く。 ・『見よ、勇者は帰る』を聴き、「問いと答え」の働きを感じ取る。 ・「問いと答え」を手掛かりに即興的に音をつなげる活動をする。 ・『シンコペーテッド　クロック』を聴き、「反復」を感じ取る。 ・「反復」を手掛かりに即興的に音をつなげる活動をする。 ・『キラキラ星変奏曲』を聴き、「変化」を感じ取る。 ・「変化」を手掛かりに即興的に音をつなげる活動をする。	**問いと答え** **反復** **変化**	問いと答え：『春がきた』（高野辰之作詞・岡野貞一作曲） 『見よ、勇者は帰る』（ヘンデル） 反復：『シンコペーテッド　クロック』（アンダソン） 変化：『キラキラ星変奏曲』（モーツァルト） ・歌詞の構造が分かりやすいように視覚的に示し、「問いかけている部分」「答えている部分」を役割分担して歌うことによって、「問いと答え」に気付くようにする。 ・楽曲を聴きながら、「問い」の部分では右手、「答え」の部分では左手を挙げる活動をすることによって、「問いと答え」を感じ取ることができるようにする。 ・即興的にふしをつなげる活動をする場面では、教師がウッドブロックで拍を刻むことによって、拍の流れの中でふしをつなげることを意識できるようにする。 ・楽曲を聴き、主題が「反復」されている部分で手を挙げたり、「反復」の回数を指を折りながら数えたり、体を動かすことによって「反復」を感じ取ることができるようにする。 ・主題と変奏を聴き比べ、スキップや手拍子、上体を揺らすなどの体を動かす活動をすることを通して、「変化」を感じ取ることができるようにする。 ・キラキラ星の旋律をリコーダーでリズム変化させ、即興的な表現をすることによって、「変化」による感じ方の違いを確認できるようにする。 ・児童が即興的な表現をしやすいよう、音を限定する。また、できたという実感が味わえるよう配慮しながら３音～５音へと音を増やしていく。	エ① （体を動かす活動の観察・「音の組み立てシート」への記入） イ① （即興表現の聴取）
〈第二次〉ねらい：「イメージシート」を基に、思考・判断しながら音やリズムを選び、「音楽の仕組み」を手掛かりとして「つながりシート」を作成することを通して、自分の思いを音楽で表現する。				
	○モチーフとなる２小節のふしをつくる。 ・リズムを選ぶ。 ・音を選ぶ。 ・終わる感じのふしに気付く。	**問いと答え**	・体を動かす活動や即興的に音をつなげる活動を通して身に付けた「問いと答え」を手掛かりにして、ふしをつくることを伝える。 ・「イメージシート」に自分が記入したイメージを基に思考・判断しながらふさわしいリズムや音を選ぶようにする。 ・教師が「問いと答え」を手掛かりとした２種類のふしを演奏し、聴き比べさせることにより、終わる感じに気付くことができるようにする。 ・「問いと答え」を手掛かりとして即興的に表現した２小節のふしを、友達同士で聴き合うことによって、終わる感じを確認し合う。	

3	○つくったふしを記譜する。 ○つくったふしを発表し合う。		・リズムは、基本リズムを基にリズム分割（変奏）したものをイメージに合わせて用いることを伝える。 ・児童がふしをつくりやすいように、使用する音は３年時に学習したおはやしの音楽を基に「ミ」「ソ」「ラ」「ド」「レ」の５音とする。 ・「つくったふしを残しておくにはどうしたらよいか」と、問いかけることにより、子どもから「書いておけばよい」という考えを引き出す。 ・「イメージに合う音やリズムを使って構成したふしを、リコーダーで試奏しながら聴き取る」「聴き取ったふしをリズム譜に表す」「リズム譜に音を書き入れる」という３段階の手順を活動の中で身に付けることによって、つくったふしを聴き取り記譜できるようにする。 ・「問い」は水色のカード、「答え」は白のカードに記譜することとし、ふしのつながりが視覚的に分かりやすいようにする。 ・「イメージシート」に記入したつくりたい音楽のイメージを基にしてリコーダーでふしの流れを確かめながら自分のイメージに合うふしをつくれるようにする。 ・つくったふしのイメージを言葉で伝え、演奏し合うことによって、自分がつくったふしのイメージを明確にしたり、友達がつくったふしのイメージを想像したりできるようにする。	ウ② （行動観察・表現聴取）
4	○「音楽の仕組み」を手掛かりとして自分の思いを表現できる音楽をつくる。 ・「問いと答え」「反復」「変化」の働きを確認する。 ・モチーフである２小節のふしを基に、音楽を構成する。 ・リコーダーで試奏ながらイメージに合う音楽をつくり、記譜する。	**問いと答え** **反復** **変化**	・つくる音楽は、児童の実態を考え「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりとして６小節のものとする。 ・教師対子どもや、子ども同士で即興的にふしをつなげる活動をすることによって、「音楽の仕組み」を手掛かりとしてふしをつなげることを確認する。 ・「問いと答え」を手掛かりとして即興的に音をつなげる活動では、「答え」のふしは終止間のある「終わる感じ」のふしとなるよう促す。 ・「イメージシート」を振り返りつつ、イメージに合う音やリズムを試し、思考・判断しながらイメージに合う音楽を構成していけるよう促す。 ・第３時で学習した記譜の方法を確認する。 ・児童が視覚的に「音楽の仕組み」を手掛かりとした構成を理解しやすいよう、つながりシートはＡ３判の厚紙の上に「問いと答え」は『水色と白』、「変化」は『黄色』、「反復」は『もとのカードと同色』とし、３色に色分けしたカードを用いて作成する。 ・リコーダーで試奏しながら、音楽のつながりを試せるように、カードは１小節分を記入できるもので、移動可能なものとする。	イ② （行動観察・「つながりシート」）
5	○中間発表をして、さらに工夫するところを見つける。 ・つくった音楽の終わり方を意識して聴き合う。 ・友達の意見を参考に、「終わる感じ」のふしになるように改善する。	**問いと答え**	・最後のふしが「終わる感じ」になっているか聴き合うように促し、まとまりのある音楽をつくるための意識をもてるようにする。 ・検討がしやすいように、グループの人数は３～４人とする。 ・グループのメンバーが、発表者の音楽を聴いて「終わる感じになっていない」と感じた場合は、それぞれがリコーダーで試奏しながら「終わる感じ」のふしを探し合い、それを参考に発表者が自分の音楽を再構成することとする。 ・「終わる感じ」を意識してふしをつくり直した場合は、自分の音楽を構成する過程を残しておくために、新しいカードに記譜し今までのカードの上に貼るようにする。	ウ① （表現内容・発言）
6	○つくった音楽を発表し、つくった音楽のよさを感じ取る。 ・自分がつくった音楽を発表する。 ・友達がつくった音楽のよさや面白さを伝え合う。	**問いと答え** **反復** **変化**	・よかった点について相互交流を図ることにより、お互いのよさを認め合う場を設定する。 ・つくった音楽のイメージや、そのイメージを音楽で表すために工夫をしたことを、「音楽の仕組み」などを基に発表できるようにする。 ・発表の仕方を提示しておくことによって、発表しやすいようにする。 ・友達がつくった音楽についてよい点や工夫してあると考えられる点を「音楽の仕組み」などを基に、聴き取りシートに記入したり、言葉で伝えたりする。	ア① （表現内容・発言・聴き取りシートへの記入）

本題材における学習（第１時～第６時）

本時の学習（第１時）

（１）ねらい　既習の知識や経験、興味・関心を基に設定したテーマから思い浮かぶ様子を「イメージシート」に言葉で記入することにより、自分がつくりたい音楽のイメージを明確にする。

（２）準備　教師：「イメージシート」　リコーダー
児童：筆記用具

（３）展開

学習活動と児童の意識	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
1　本時のめあてをつかむ。 ・思い浮かぶ様子などを「イメージシート」に記入して、自分がつくりたい音楽のイメージを明確にするのだな。	5分	○他教科等との関連から、音楽づくりの発想を得ることによって、つくりたい音楽のイメージをもちやすくさせると同時に、学習を広げ深められるようにする。	
2　総合的な学習の時間から得た知識や経験、興味・関心を基にテーマを設定し、そこから思い浮かぶ言葉やつくりたい音楽のイメージを「イメージシート」に記入する。 （記入例） **湖の水**（テーマ） ↓ **青光・流れる・ゆらゆら・キラキラ**（テーマから思い浮かぶ言葉） ↓ **湖の水がゆらゆらゆれている感じの音楽をつくろう** （つくりたい音楽のイメージ） 3　つくりたい音楽のイメージとその理由を交流し合う。 ・湖の中で小さい魚達がすいすい泳いでいる感じの音楽にしたいな。鳴沢湖で魚を見た時、何匹かで一緒に泳いでいて楽しそうだったから、こんな音楽がいいな。	30分	○児童が共通に学習したことを基にすることにより、つくった音楽を互いに聴き合う際に、聴き手の児童が音楽のイメージを想像しやすいようにする。 ○あるイメージを基にしてつくった音楽を教師のリコーダー演奏で聴かせ、音楽づくりへの見通しをもてるようにする。 ☆「テーマを設定する」「テーマから思い浮かぶ言葉を記入する」「記入した言葉を参考に、つくりたい音楽のイメージを考える」という三つの段階を踏むことによって、自分がつくりたい音楽のイメージを明確にできるようにする。 ○具体的なイメージを言葉で記入できない児童には、友達の表現を参考にさせたり、色、形、動きについて教師と問答させたりしながら、つくりたい音楽のイメージを明確にできるようにする。 ○交流し合うことによって、互いにつくりたい音楽のイメージを認め合うと同時に自分がつくりたい音楽への思いを明確にできるようにする。	○様子をイメージして音で表す事に関心をもち、音楽づくりへの見通しをもとうとしている。 （観察・「イメージシート」への記入）
4　「問いと答え」を感覚的にとらえるために、問答遊びをし、次時の学習へつなげる。	10分	○拍の流れに乗りながら、即興的に言葉や音で問いかけたり答えたりすることによって、音のつながり方をとらえ、音楽をつくる時の手掛かりにできるようにする。	

音楽づくり
イメージシート

名前　　（　　）

自分のテーマからイメージした様子を音楽で表そう！

♪テーマ

テーマから思いうかぶ言葉

♪使う楽器

ぼく　わたしの
オリジナルメッセージ

♪テーマ

が

どんな風になっている？

（して）いる感じの音楽を
つくろう！

本時の学習（第２時）

（１）ねらい　楽曲を聴きながら体を動かす活動をすることによって、「音楽の仕組み」に含まれる「問いと答え」「反復」「変化」を感じ取り、それらを手掛かりに即興的にふしをつなげる。

（２）準備　教師：CD『シンコペーテッド　クロック』『見よ、勇者は帰る』『きらきら星変奏曲』「音の組み立てシート」　リコーダー

児童：筆記用具　リコーダー

（３）展開

学習活動と児童の意識 『使用する曲』　〔共通事項〕	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
1　本時のめあてをつかむ。 ・「音の組み立てシート」を使って、音楽の作り方について学習するのだな。 〔問いと答え〕〔反復〕〔変化〕	5分	○「音楽の仕組み」を家の骨組に例えて伝え、本時のめあてをつかめるようにする。	
2　楽曲を聴きながら体を動かす活動をしたり、友達がつくったふしを聴きながら即興的にふしをつなげたりする。 『見よ、勇者は帰る』〔問いと答え〕 『シンコペーテッドクロック』〔反復〕 『きらきら星変奏曲』〔変化〕 ・「春がきた」の歌詞は会話のようになっているな。 ・「問いと答え」「反復「変化」を使って友達のふしにつなげると、音楽ができておもしろいな。	35分	○「問いと答え」「反復」「変化」について特徴的な楽曲を聴きながら「体を動かす活動」をすることによって、これらを感じ取れるようにする。 ○リコーダーで即興的に音をつなげる活動をする時に、教師はウッドブロックで拍を刻み、児童が拍の流れの中で音をつなげることを意識できるようにする。 ☆感じ取った「音楽の仕組み」を児童の言葉で「音の組み立てシート」に記入することによって、身近なものとしてとらえることができるようにする。 ○「問いと答え」については、「問いかけている部分」「答えている部分」が分かりやすい既習曲の歌詞を示すことにより視覚的に「問いと答え」を理解できるようにする。 ○児童が即興的な表現をしやすいよう、音を限定する。また、できたという実感が味わえるよう配慮しながら３音～５音へと音を増やしていく。 ○即興的にふしをつなげる活動はペアで行い、ふしをつなげられた場合、「音の組み立てシート」に○を付け合い確認できるようにする。	○「問いと答え」「反復」「変化」の働きのよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。 （「音の組み立てシート」への記入・観察） ○聴き取った「音楽の仕組み」のよさや面白さを生かして即興的な表現を工夫している。 （「音の組み立てシート」への記入・観察）
3　本時のまとめをする。 ・本時の振り返りと次時のめあてを確認する。	5分	○楽曲を聴きながら体を動かす活動をすることや、即興的に音をつなげる活動を意欲的にできたことを認める。 ○「音楽の仕組み」を手掛かりとして自分がイメージした音楽をつくっていくことを伝え、次時の学習の見通しがもてるようにする。	

音楽づくり

音の組み立てシート

名前（　　）

曲名	感じ取れた「音の組み立て」	「音の組み立て」を使って友だちのふしにつなげてみよう！		
		できたら○をつけよう		
		できたら○をつけよう		
		できたら○をつけよう		

本時の学習（第３時）

（１）ねらい　つくりたい音楽のイメージに合う音やリズムを用いて思考・判断しながら２小節のモチーフをつくる。

（２）準備　　教師：ワークシート（イメージに合うふしをつくろう）
　　ふしを記譜するカード（水色・白）
　　児童：筆記用具　リコーダー

（３）展開

学習活動と児童の意識 〔共通事項〕	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
１　本時のめあてをつかむ。 ・「問いと答え」を手掛かりとしてイメージに合うふしをつくるのだな。〔問いと答え〕	５分	○これまでの学習を振り返り、「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりにして音楽をつくれることに気付くようにする。	
２　つくりたい音楽のイメージを基に、「問いと答え」を手掛かりにしてまとまりのある２小節のふしをつくる。 ・「イメージシート」に書いたつくりたい音楽のイメージに合うふしをつくるためには、どんな音やリズムを使ったらいいかな。 ３　つくったふしを記譜する。 （記譜の手順） **「イメージに合う音やリズムを用いて構成したふしを、リコーダーで試奏しながら聴き取る」→「聴き取ったふしをリズム譜に表す」→「リズム譜に音を書き入れる」**	30分	○「問いと答え」を手掛かりとして、即興的にふしをつなげる活動をすることによって、ふしのつなげ方を確認する。 ○用いる音は３年次のお囃子の音楽の学習を踏まえ、「ミ」「ソ」「ラ」「ド」「レ」とする。 ○用いるリズムは、低学年からの学習で馴染んできた「♩♩♩𝄾」と「♩♩♩♩」を基本とし、これらを自分のイメージに合わせて分割して用いることとする。 ○教師が「問いと答え」を手掛かりとした２種類のふしを演奏し、聴き比べさせることにより、終わる感じに気付くことができるようにする。 ○「つくったふしを残しておくにはどうしたらよいか」を問いかけることにより、児童から「書いておけばよい」という考えを引き出し、記譜の必要性に気付くことができるようにする。 ☆「イメージシート」に記入したつくりたい音楽のイメージを基にして、リコーダーでふしの流れを確かめながら自分のイメージに合うふしをつくれるようにする。 ○「問い」は水色のカード、「答え」は白のカードに記譜することとし、ふしのつながりを視覚的に分かりやすいようにする。	○自分のイメージをもとにリズムや音を選び、モチーフをつくることができる。 （ワークシートへの記入・観察）
４　本時のまとめをする。 ・表したいイメージとふしがよく合っているな。	10分	○つくったふしのイメージを言葉で伝えることにより、自分の思いを明確にし、演奏し合うことによって、友達がつくったふしのイメージを想像したりできるようにする。	

本時の学習（第４時）

（１）ねらい　前時につくった２小節のふしを基に、「音楽の仕組み」を手掛かりとして思考・判断しながらまとまりのある音楽をつくる。

（２）準備　　教師：ふしを記譜するカード（水色　白色　黄色）　「つながりシート」
　　ふしのつなげ方をまとめたシート（提示用）
　　児童：筆記用具　　「イメージシート」　　リコーダー

（３）展開

学習活動と児童の意識 〔共通事項〕	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
1　本時のめあてをつかむ。 ・ふしのつなげ方を工夫して、イメージに合うまとまりのある音楽をつくるのだな。 〔問いと答え〕〔反復〕〔変化〕	5分	○「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりにして、ふしのつなげ方をまとめたシートを提示し、本時のめあてをつかめるようにする。	
2　「問いと答え」「反復」「変化」の働きを確認する。 3　リコーダーで試奏しながらイメージに合う音楽をつくり、記譜する。 ・前時につくったふしにつなげるふしをつくるのだな。どんなリズムと音を使ってつくろうかな。 ・口ずさむと、イメージに合うつなげ方かどうか、わかるよ。 ・魚が泳いでいる感じのふしを『へんしん』させたら、たくさんの魚が追いかけっこをしている感じになったな。 ・まとまりのある音楽になるように、「問いと答え」の部分は、リコーダーで吹いて確かめてみよう。	35分	○即興的にふしをつなげる活動を通して、「音楽の仕組み」を手掛かりとして音楽を構成できることを確認する。 ○「問いと答え」を手掛かりとして即興的に音をつなげる活動では、「答え」のふしは終止感のある「終わる感じ」のふしとなるよう促す。 ○まとまりのある音楽は、児童の実態を考え「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりとして６小節の音楽をつくることとする。 ☆つくっている過程の音楽の構成が視覚的に理解しやすいように、手掛かりとする「問いと答え」「反復」「変化」は３色に色分けしたカードを用いることとする。 ○第３時で学習した記譜の方法を確認する。 ☆「イメージシート」を振り返りつつ、イメージに合う音やリズムを試し、思考・判断しながら、「音楽の仕組み」を手掛かりとしてイメージに合う音楽を構成できるよう、声をかける。 ○リコーダーで試奏しながら、音のつながりを試せるように、カードは１小節分を記入できるものとし、移動可能なものを用いる。 ○「つながりシート」はＡ３判の厚紙に仕上げるようにし、発表時に聴いている児童が視覚的に「音楽の仕組み」を手掛かりとしたふしのつながりを理解できるようにする。	○イメージと「音楽の仕組み」を結び付けて音楽を工夫している。（「つながりシート」の作成・観察）
4　本時のまとめをする ・自分のイメージに合う音楽がつくれてよかったな。	5分	○「問いと答え」「反復」「変化」を手掛かりとして、イメージに合う音楽がつくれたことを賞賛する。	

本時の学習（第５時）

（１）ねらい　中間発表を行うことにより、イメージに合うまとまりのある音楽になっているか友達同士で聴き合う。

（２）準備　　教師：ふしを記譜するカード（水色　白色　黄色）
　　児童：筆記用具　「つながりシート」　リコーダー

（３）展開

学習活動と児童の意識 〔共通事項〕	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
1　本時のめあてをつかむ。 ・中間発表をして、イメージに合うまとまりのある音楽になっているか聴き合うのだな。 〔問いと答え〕	5分	○まとまりのある音楽にすることを伝え、最後の２小節は「問いと答え」を手掛かりとして構成し、「答えのふし」を終止感のある「終わる感じ」となっているか聴き合うように促す。	
2　中間発表をする。 ・どんな音を使ったら「終わる感じ」になるか友達のふしをよく聴いてみよう。 3　自分がつくったふしをまとまりのある音楽になるように再構成する。	35分	○中間発表のグループは、意見を伝え合う機会を確保しやすいように、３～４名の構成にする。 ○発表がスムーズに進行するように、発表の仕方、司会の進め方について示す。 ○聴く観点は「音楽の終わり方が終わる感じであるか」とし、まとまりのある音楽をつくるための意識をもてるようにする。 ☆友達の音楽を聴いて最後の２小節の「問いと答え」の「答え」の部分が終わる感じになっていない場合は、グループのメンバーがリコーダーで試奏しながら他の音を用いたふしを提案するようにする。 ○最後のふしを、友達の意見を参考にして終止感のある「終わる感じ」のふしとなるように、再構成する。 ○「終わる感じ」を意識してふしをつくり直した場合や、よりイメージに合う音楽になるようにふしをつくり直した場合は、これまでのカードの上に新しく記譜したカードを貼り、思考の変容の過程が分かるようにする。 ○　「終わる感じ」を感じ取ることができない児童には、教師がいくつかのふしを演奏し、聴き比べさせることによって、「終わる感じ」に気付くようにする。	○終わり方を意識してまとまりのある音楽をつくっている。 （「つながりシート」の作成・観察）
4　本時のまとめをする。 ・友達の意見を参考にしてつくり直したら、まとまりのある音楽になったな。	5分	○グループで中間発表をしたことによって、イメージに合うまとまりのある音楽を再構成できたことを認める。	

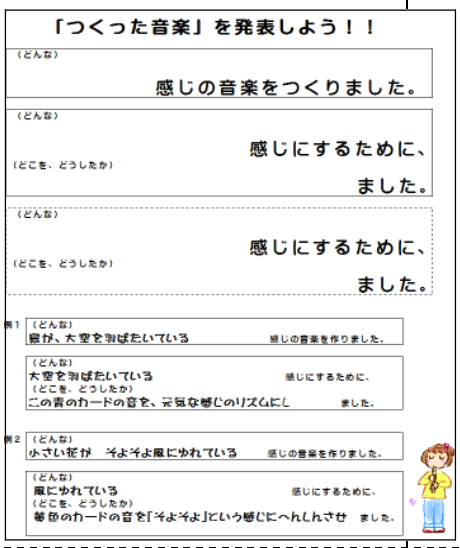
本時の学習（第６時）

（１）ねらい　自分のイメージを基にしてつくった音楽を発表し合い、お互いがつくった音楽のよさや面白さを交流し合う。

（２）準備　　教師：ワークシート（①友達によかったところを伝えよう！　②「つくった音楽」を発表しよう）

児童：筆記用具　リコーダー

（３）展開

学習活動と児童の意識 〔共通事項〕	時間	指導上の留意点 （☆：研究上の手だて）	具体の評価規準 （評価方法）
1　本時のめあてをつかむ。 ・自分がつくった音楽とそのイメージを発表し合うのだな。 〔問いと答え〕〔反復〕〔変化〕	5分	○つくった音楽とそのイメージについて相互交流を図ることにより、お互いのよさや面白さを認め合う場を設定する。	
2　発表の仕方について知る。 ・自分がイメージした様子や、それを表しているふしを伝えるのだな。 3　自分がつくった音楽を発表し合う。  「つくった音楽」を発表しよう！！ （どんな） 感じの音楽をつくりました。 （どんな） 感じにするために、 （どこを、どうしたか） ました。 （どんな） 感じにするために、 （どこを、どうしたか） ました。 例1 （どんな） 空が、大空を羽ばたいている　感じの音楽を作りました。 （どんな） 大空を羽ばたいている　感じにするために、 （どこを、どうしたか） この青のカードの音を、元気な感じのリズムにし　ました。 例2 （どんな） 小さい花が　そよそよ風にゆれている　感じの音楽を作りました。 （どんな） 風にゆれている　感じにするために、 （どこを、どうしたか） 緑色のカードの音を「そよそよ」という感じにへんしんさせ　ました。	35分	○自分がつくった音楽のイメージをリコーダー演奏で伝えることができるよう、各自で発表練習をする。 ○つくった音楽のイメージや、そのイメージを音楽で表すためにどんな工夫をしたのか、「音楽の仕組み」などを基に発表できるようにする。 ○自分がイメージした音楽をつくるために工夫した点を、聴き手に分かりやすくするための発表の仕方を示す。 ○「どんな感じの音楽をつくったのか」「その感じを表現するために、どの部分をどうしたのか」をワークシート①に書くことにより、発表しやすくする。 ○ワークシート①は、記入例を示すことにより児童が記入しやすいものにする。 ☆友達がつくった音楽についてよい点や工夫してあると考えられる点を「音楽の仕組み」などを基に、ワークシート②に記入したり、言葉で伝えたりする。 ○友達同士で互いのよさを発表し合い、認め合うことによって、満足感が得られるようにする。	○「音楽の仕組み」のよさや面白さに関心をもち、それらを生かして表現したり聴いたりする活動に自ら取り組もうとしている。 （発表・発言・ワークシートへの記入 ）
4　本時のまとめをする。 ・「変化」の部分は、魚が追いかけっこをしている感じだったな。	5分	○イメージに合う音楽を発表し合ったり、「音楽の仕組み」などにかかわる友達の表現のよさや面白さを伝え合えたことを認める。	